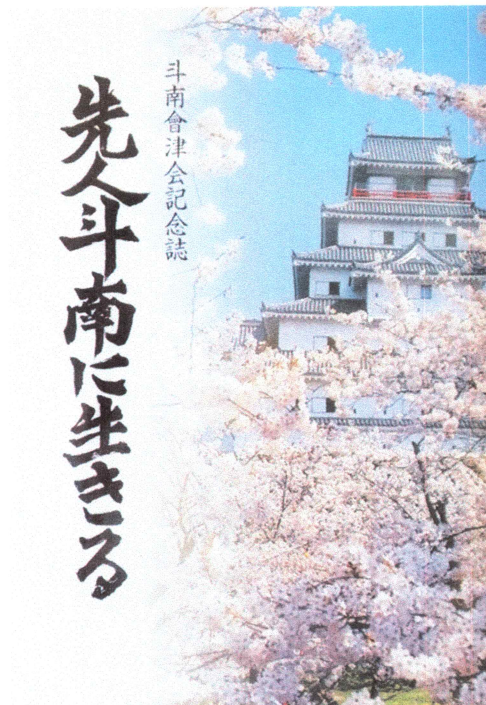


しもきた学講座

斗南藩基礎講座

第10回 先祖の慰霊と斗南藩史跡地巡り

日時 令和6年1月18日(木) 18:30～
場所 下北文化会館大集会室
講師 地域史研究家 三浦 順一郎



斗南會津会記念誌

主催 むつ下北未来創造協議会事務局

斗南藩基礎講座

第10回 先祖の慰霊と斗南藩史跡地巡り

地域史研究家 三浦 順一郎

1. はじめに

戊辰戦争の戦死者が一番多かったのは会津藩であった。
生き残った藩士は戦没者の慰霊をおこなった。招魂碑を建てて、霊を吊った。青森県には4基の招魂碑がある。むつ市では毎年慰霊祭を実施している。
また白虎隊の隊士の慰霊も忘れなかった。三戸町の観福寺の白虎隊の供養碑は日本最古のものである。
また、会津藩士は恩師を顕彰する。その墓碑が存在する。三戸町の大神宮にある杉浦凱と悟真寺の渡部虎次郎、それに下北郡風間浦村下風呂の共同墓地の荒木剛の墓である。ともに教師として子弟のために働いたからである。

2. 会津まつり

会津まつりは70年の歴史がある。毎年9月22日から24日にかけて開催される。提灯行列、会津磐梯山踊り、会津藩公行列(以後、行列とする)、日新館童子行列・鼓笛隊パレードの四部構成からなる。行列の趣旨は感謝と慰霊である。会津若松市の発展のために尽くした先人(葦名氏・蒲生氏・上杉氏・加藤氏)への感謝と戊辰戦争の戦死者【長岡藩(新潟県)・郡上藩(岐阜県)、桑名藩(三重県)、新選組も含む】の御霊を弔う。
行列には500名が参加し、沿道は市民や観光客であふれる。八重の桜の綾瀬はるかも応援に駆け付ける。一度は観たほうがよい。

3. 藩士は先祖の慰霊を忘れなかった

斗南の藩士や末裔は、戦死者の供養を忘れなかった。鎮魂と感謝の気持ちを表するために招魂碑を建て、祭り(供養)をした。
また、会津への墓参もおこなった。20年に1度の慰霊祭が行なっていたが、諸般の事情で5年ごとになった。ただし、斗南會津会独自で毎年献霊をしている。

表1 青森県の招魂碑

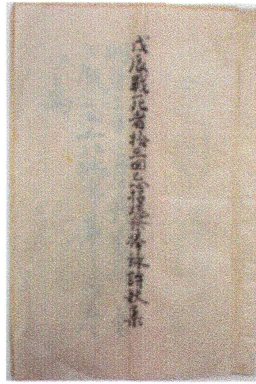
	碑題名	題字揮毫	寺名	場所	建碑年月	回忌	撰文	書
1	招戦没諸士之魂碑	山川 浩	澄月寺	十和田市	明治23年7月	23	秋月胤永	佐藤劉二
2	招魂碑	松平容大	悟真寺	三戸町	明治27年8月	27	南摩綱紀	渡部重慎
3	招魂之碑	松平容大	円通寺	むつ市	明治33年7月	33	南摩綱紀	南摩綱紀
4	招戦没諸士之魂碑	無	青岩寺	七戸町	大正6年8月	49	無	無

(1)招魂とは

招魂とは、字義の如く、死者の靈魂をこの世に招いて祭ることである。
青森県内に、会津藩士を祭った招魂碑は4基ある。十和田市の澄月寺の「招戦没諸士之魂碑」、三戸町の悟真寺の「招魂碑」、むつ市の円通寺の「招魂之碑」には碑文が銘記されてある。七戸町の青岩寺の招戦没諸士之魂碑には、碑文が銘記されていない。

(2)招魂祭と慰霊祭

- ①13回忌招魂祭 明治13年6月20日(徳玄寺)
「戊辰戦死者拾三回忌招魂祭捧詠詩歌集」
- ②27回忌招魂祭 明治27年秋
- ③30回忌招魂祭 明治30年
- ④33回忌大法要 明治33年8月
- ⑤戊辰殉難五十年招魂祭 大正6年6月3日
「戊辰殉難五十年招魂祭吊詩和歌俳句」
- ⑥100年祭 昭和46年6月16日
- ⑦120年祭 平成2年6月2日
- ⑧140年祭 平成22年6月13日
- ⑨145年祭 平成27年6月7日
斗南會津会記念誌『先人斗南に生きる』
- ⑩150年祭 令和2年6月27日 中止
- ⑪155年祭 令和7年6月 予定



戊辰戦死者拾三回忌
招魂祭捧詠詩歌集



先人斗南に生きる



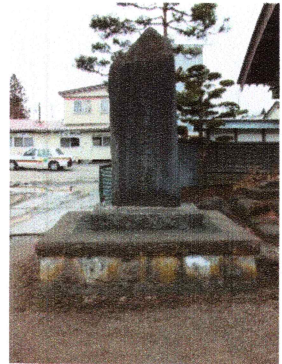
澄月寺の招魂碑



悟真寺の招魂碑



円通寺の招魂之碑



青岩寺の招魂碑

(3)恩師の慰霊碑

指導を受けた教師に対する謝恩を忘れないのも会津藩士の特徴である。

①杉原 凱(1806～1871)

三戸町の三戸大神宮

会津藩の日新館教授を勤めた藩士である。戊辰戦争後に三戸町に移った。塾を開き師弟の教育にあたらうとした、明治4年(1871)に死去した。弟子に青森県師範学校長を勤め、青湾学舎を設立した沖津醇(1831～1911)と三戸町の教育に尽力した渡部虎次郎(1848～1917)がいる。

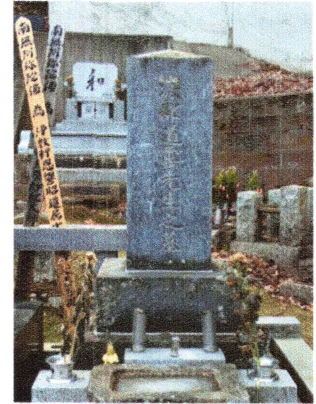
杉原凱先生之墓の碑文は渡部虎次郎が揮毫した。



杉原 凱の墓

②渡部虎次郎(1848～1917)

三戸町悟真寺 教え子が墓を建立
 先生名虎次郎舊會津藩士也為三戸小
 學校長從事育英者數十年書道特其口
 達也大正六年四月十四日以病没享年
 七十歲受教者胥謀茲建碑永銘其感
 大正八年七月十三日建之 *大正八年(1919)

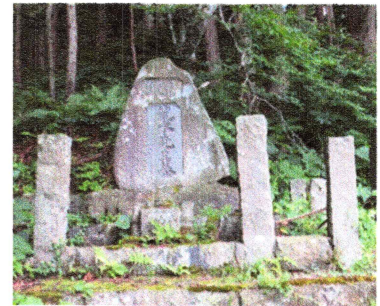


渡部虎次郎の墓

③荒木 剛 (1858～1910)

風間浦村下風呂 共同墓地

墓碑銘 恩師 荒木先生墓 明治四十三年一月十三日 51歳
 世話人 酢谷多治 八谷耕次郎 傳法林治
 *勤務期間 明治11年10月30日～明治43年 1月13日



荒木 剛の墓

表2 青森県内の会津・斗南史藩跡地

市町村	見学場所	見学内容
三戸町	三戸大神宮	杉浦凱の墓、渡部虎次郎献納額
	悟真寺	招魂碑 渡部虎次郎の墓、萱野権平位牌
	観福寺	白虎隊供養塔(日本で最初のもの)
五戸町	高雲寺	倉沢平治右衛門墓、内藤介右衛門墓、倉沢平治右衛門私塾跡
十和田市	澄月寺	招戦没諸士之魂碑
三沢市	三沢市先人記念館	広沢安任関係資料 広沢牧場

(4)三戸町感福寺の白虎隊供養塔(日本で最初のもの)



梁瀬竹治 鈴木源吉 伊藤俊彦
 石山虎之助 野村駒四郎 有賀織之助
 西川勝太郎 永瀬雄次 篠田義三郎
 伊藤弟次郎 池上新太郎 梁瀬勝三郎
 安藤三郎 井深茂太郎 飯沼貞吉
 間瀬源七郎 石田和助

忠烈古今稀ナル白虎隊ノ英魂ヲ弔ハ
 明治四年未正月拾参日

左説明 右供養碑

4. 斗南藩史跡地巡り

別紙参照

基本的事項を記載しておいたから、活用してほしい。

5. おわりに

日本政府や薩長関係者は、明治維新を輝かしい事績として称賛する。しかし、東北地方の人たちは明治維新を称賛することができなかった。東北地方を蔑視・卑下した薩長の行為は許すことができなかった。東北地方に対する薩長の偏見は長く続いた。東北地方が明治維新150年ではなく、戊辰戦争150年と称している。これは戊辰戦争を起点として考えるからである。

会津藩はいわれのない朝敵・逆賊の汚名を着せられた。さらに戊辰戦争で略奪、殺戮等の残虐行為等が行われた。薩長の仕打ちに遺恨、怨念を抱いている。

会津若松市と萩市の首長同士や商工会関係者は、友好をはかるための話し合いをもった。しかし、歴史観の違いにより和解にいたらなかった。「仲良くはするが、仲直りはしない」状態がまだ続いている。この確執の解決は、両地区の若者たちが正しく歴史を学ぶ姿勢にゆだねられている。

斗南藩首脳部は斗南日新館を建て、次世代を担う子弟の教育指導にあたった。入門者は藩士のみならず町人も許可した。また藩士の中には塾を開いて教育した者もいた。

青森県・下北地方に残った藩士や末裔は、教育面・行政面で業績を残した。学制発布後に多くの会津藩士が小学教師・校長となり、教育指導を行った。

また町村の首長となった。20年・30年以上も首長を務めたのは行政手腕があり、人望があったからである。会津・斗南藩の果たした役割を後世に伝えなければならない。歴史から学ぶ姿勢を堅持しなければならない。

三年にわたる斗南藩基礎講座に参加くださり、ありがとうございます。

○備 考

表3 斗南藩基礎講座の参加数

題	開 催 期 日	参加数
第 1回斗南藩基礎講座 幕末の会津藩	令和4年11月17日	40人
第 2回斗南藩基礎講座 斗南藩の誕生と藩士の移住	令和4年12月15日	37人
第 3回斗南藩基礎講座 斗南の生活	令和5年 1月19日	54人
第 4回斗南藩基礎講座 斗南藩の消滅	令和5年 2月16日	41人
第 5回斗南藩基礎講座 女性から見た斗南の暮らし(1) 手代木喜与の場合	令和5年 3月16日	31人
第 6回斗南藩基礎講座 女性がみた斗南の暮らし(2) 鈴木光子の場合	令和5年 9月21日	33人
第 7回斗南藩基礎講座 藩士の活躍 秋月悌次郎	令和5年10月19日	24人
第 8回斗南藩基礎講座 藩士の活躍 柴五郎	令和5年11月16日	25人
第 9回斗南藩基礎講座 藩士の活躍 小池毅と橋爪陽	令和5年12月21日	26人
第10回斗南藩基礎講座 先祖の慰霊と斗南藩史跡地巡り	令和6年 1月18日	人

○招戦没諸士之魂碑(十和田市 澄月寺)

会津藩士の霊を慰める招魂碑が十和田市(元は陸奥国上北郡三本木村)の澄月寺の「招戦没諸士之魂碑」である。明治二十三年(一八九〇)七月に建立された。題は山川浩、碑陰記の撰文は秋月胤永、書は門人の佐藤劉二である。秋月胤永は詩人で名文家として知られ、多くの碑文を依頼された人である。

我會津藩戊辰之役。開端伏見鳥羽。尋戦下野越後及白河等各地。終嬰城拒戦。前後殞僉者殆三千。父為獨。子為孤。其慘状不可言。蓋亦盡忠其主已。先是藩主松平容保公之為京都守護職也。孝明帝賜近衛忠熙書曰。會藩勇威朕頼之。将有藉其力。亂平後。長門奥平謙輔贈書曰。貴國有大造于海内。不獨為幕府致節。弊邑亦受其賜。土佐岩崎惟慊亦曰。京畿以東。兵力之強。誰出貴藩之右者。其為先帝所依頼。諸藩所稱揚如此。蓋戦歿諸士與有力矣。及世子容大公再封斗南。諸臣多從焉。今茲庚寅值廿三回忌辰。胥謀。建碑于上北郡三本木村澄月寺以祭焉。舊藩老山川浩為題其面。胤永記陰。嗚呼諸士玉碎。其名與此石不朽。而余輩瓦全。至今不能成一事。媿於諸士多矣。
明治二十三年七月。正七位秋月胤永撰。門人佐藤劉二書。

(読み下し文)

我會津藩は戊辰の役、端を伏見鳥羽に開かれ、尋いで下野越後及び白河等各地に戦い。終に孤城に嬰つて戦を拒ぎて連旬、前後戦歿する者殆ど三千人。父は獨りとなり、子は孤となり、其の慘状言うべからず。蓋亦其の主に忠を盡せしのみ。先には、藩主松平容保公の京都守護職となるや。孝明帝近衛忠熙に書を賜いて曰く、會藩は勇威朕之に頼る。將に其の力を藉る有り。亂平らぎし後、長門の奥平謙輔書を贈つて曰く、貴國は大いに海内に造す有り、独り幕府に節を致すのみならず、幣邑も亦其の賜を受く。土佐の岩崎惟慊亦曰く、京畿以東、兵力の強き、誰が貴藩の右に出づる者か。其の先帝の依頼する所と為す。諸藩の稱揚する所此の如し。蓋戦歿諸士の與つて力有るなり。世子容大公に及んで、再び斗南に封ぜらる。諸臣多く従う。
今茲に庚寅廿三回忌辰に値り、胥謀り、碑を上北郡三本木村澄月寺に建て以て祭る。旧藩老山川浩其の面に題とし、胤永其の陰に記す。嗚呼諸士玉碎し、而して其の名此石と與に朽ちず。而余輩瓦全し、今に至つて一事を成す能わず。諸士の多くに媿するなり。
明治二十三年七月 正七位秋月胤永撰。門人佐藤劉二書。



○招魂之碑(むつ市 円通寺)

二十三日忌の明治三十三年(一九〇〇)八に円通寺の境内に建てられた。題は篆書体で松平容大、碑陰記の碑文の撰並びに書は南摩綱紀の筆になる。

石工 伊東兵太郎

招 魂 之 碑

源容大書

碑 明治戊辰之亂會津藩士奮戰各地死者數千人其忠勇節烈
 凜乎凌風霜矣及亂平生者皆浴一視同仁之澤而死者幽魂
 陰 獨彷徨寒煙野草之間不得其所吁嗟哀哉今茲庚子爲其三
 十三年忌辰於是舊藩士居南部下北郡者胥謀建碑圓通寺
 記 招魂祭之寺則舊藩主容大公封斗南時所館也
 明治三十三年八月

舊會津藩士從五位勳五等南摩綱紀撰并書

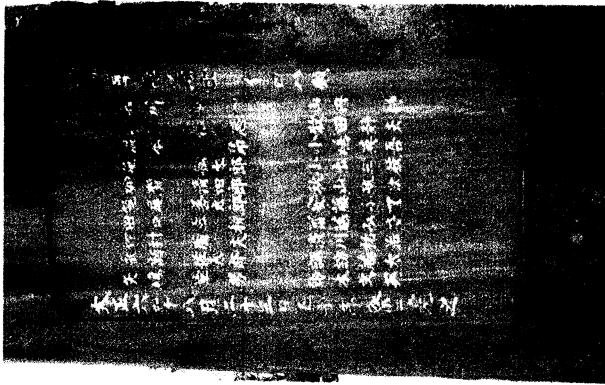
(読み下し文)

明治戊辰の乱、会津藩士各地に奮戦す。死者数千人。其の忠勇節烈は凜乎として風霜を凌ぐ。
 乱平に及び、生者は皆一視同仁の沢に浴す。而して死者の幽魂は、ひとり寒煙たる野草の間を
 彷徨し、その所を得ず。吁嗟哀しい哉。今茲に庚子は其の三十三年忌辰なり。是に於いて旧藩
 士の南部下北郡に居する者、碑を圓通寺に建て、招魂の祭りを相謀る。この寺は則ち旧藩主
 容大公の斗南に封せらる時の館なる所也。

斗南藩史跡地見学のポイント

見学地	内容	留意点
斗南藩士上陸之地 写真番号1	<p>明治3年(1870)6月10日、米国の外輪蒸気船ヤンシー号が、大平浦に着く。藩士家族1800人を4艘の舳で輸送する。円通寺、常念寺、徳玄寺に止宿する。</p> <p>平成2年(1990)に、「斗南藩士上陸之地」の記念碑を建立する。碑文の揮毫者は会津松平家13代当主松平保定、石は会津若松市の背炙(せあぶり)山産出の凝灰岩の慶山石を使用している。記念碑は会津若松市を向く。</p>	<p>○移住、「市中大混雑」の記録がある。○陸路(24日、25日)、海路(高田、品川から3泊)○昭和59年、むつ市と会津若松市が姉妹都市盟約を締結</p>
円通寺(曹洞宗)の「招魂之碑」 写真番号2	<p>円通寺は斗南藩の仮藩庁がおかれた所である。</p> <p>明治33年(1900)の三十三回忌に、藩士の霊を慰めるために、有志によって「招魂之碑」が建立された。題字は松平容大、碑陰記は南摩綱紀である。</p> <p>招魂之碑の原本と会津藩戦死者人名掛幅(三幅)、容大幼少の玩具の布袋像が、円通寺にある。</p>	<p>○撰並びに書は南摩綱紀である(明治の三大漢学者の一人)。*会津藩士の招魂碑は、①十和田市の澄月寺、②三戸町の悟真寺、③七戸町の青源寺にある(碑文はない)。</p>
徳玄寺(浄土宗) 写真番号3	<p>容大の食事の場所として使用された。寺内に「斗南藩庁建築計画図」、「斗南ヶ丘建築家屋間取図」、容大が与えたとされる「中啓(扇)」が残っている。</p> <p>藩士の墓に、広島県の三大酒の恩人といわれた橋爪陽の墓(祖父母、両親、弟も)がある。</p>	<p>*徳玄寺に堀達之助の妻の美也の墓がある。堀は日本最初の英和辞典『英和对訳袖珍辞書』の作者である。</p>
斗南藩史跡地の土塀跡 写真番号4	<p>斗南ヶ丘の市街地は1戸建約30棟、2戸建80棟からなった。1屋敷を100坪とし、土塀を巡らした。井戸は18ヶ所を掘った。現在は井戸跡と土塀跡がかすかに残る。建物は、藩士が入居する前の明治3年(1870)9月18日から翌19日にかけての大風によって、全ての屋根が剥がされ、便所も吹き飛ばされた。その後補修する。</p>	<p>○斗南の生活状況は荒川勝茂『明治日誌』を参照。○女性の斗南移住の記録は、間瀬みつ「戊辰後雑記」、手代木喜与「松の落葉」、鈴木光子『光子』○逆賊・朝敵を払拭する『七年史』、『京都守護職始末』、『会津戊辰戦史』○戊辰戦争の順逆史観は三浦梧楼『観樹將軍回顧録』に詳しい。</p>
秩父宮両殿下御成記念碑 写真番号5	<p>昭和3年(1928)に、昭和天皇の令弟雍仁親王と松平容保の息子の恆雄の娘節子(後に勢津子に改名)と御成婚となった。節子は平民の出であるため、家格をつりあわせるために、会津松平家12代当主松平保男(男爵)の養女となった。</p> <p>昭和11年(1936)に、両殿下が先祖の地斗南ヶ丘に御成りした。</p> <p>昭和18年(1943)に、斗南ヶ丘に秩父宮両殿下御成記念碑を建てる。題字は、会津松平家12代当主男爵松平保男(勢津子妃の養父)の揮毫である。</p> <p>昭和46年(1971)に、秩父宮勢津子妃は百年祭に出席した。</p>	

招戦没諸士之魂碑(七戸町 青岩寺)



舊會津藩士 一六八順

石川正一	山内伸
伊澤信志	牧田静夫
橋本昂	小嶋英吾
星松太郎	小出三枝
加賀清四郎	秋山政次
笠尾善太郎	安藤ふて
田口主税	齋藤みさ
竹村康夫	洪川祐治
永瀬佐太郎	諏訪藤太
矢嶋章男	鈴木文英

大正六年八月二十三日五十年祭三建之

<p>旧斗南藩墳墓の地 斗南藩追悼之碑</p> <p>写真番号6</p>	<p>3基の墓と1基の追悼碑がある。</p> <p>①「泰齋靈神(佐々木禊齋)」手代木勝任(会津藩公用方)・佐々木只三郎(京都見廻組)の父親。</p> <p>②「竹村俊秀祖母之墓」竹村俊秀は斗南藩庁の開発係を勤め、将来を嘱望された。上司と織が合わず、反乱を企てたため処刑された(思案橋事件)。父の助兵衛(鬢翁)は儒学者。廃藩置県後は十和田に移り、開墾に従事した。</p> <p>③「島影弥五七の墓」斗南ヶ丘に最後まで残った藩士。</p> <p>④「斗南藩追悼之碑」(題字松平保定) 昭和51年(1976)に建立された。</p>	<p>○「泰齋靈神(佐々木禊齋)」は『下北地域史話』を参照。○政府転覆の反乱を起こし、失敗した(思案橋事件)。永岡久茂は獄死し、井口・竹村・中原は斬首された。三人の墓は東京都新宿の源慶寺にある。○綱淵謙錠の『苔』が参考となる。</p>
<p>尻屋崎灯台と感恩碑</p> <p>写真番号7・8</p>	<p>尻屋崎周辺は暗礁が多く、濃霧が発生するため、遭難の多い海域である。斗南藩は、航海の安全を図るために尻屋崎に灯台を建設することを建言した。</p> <p>明治9年(1876)に尻屋崎灯台は竣工し、点灯を開始した。斗南藩の先見の明を示す、重要な建造物である。</p> <p>昭和13年(1938)に、秩父宮両殿下御成を記念して、感恩碑が尻屋の住民によって躰躰見ヶ丘に建てられた。碑名の揮毫者は元斗南藩士で、台湾総督を勤めた枢密顧問官の石塚英蔵である。石塚は秩父宮両殿下御成の際に介添役をした。</p>	
<p>柴五郎一家住居跡と呑香稻荷神社、柴五郎翁顕彰碑</p> <p>写真番号9</p>	<p>柴家は田名部に居住したが、大平の落野沢の新田家に間借りした。開墾に従事し、辛酸をなめた。後に陸軍大將となった柴五郎も1年ばかり生活をした。</p> <p>呑香稻荷神社は当地区の氏神神社である。ここに兄の五三郎が寝泊りした。その時の柱に落書きをした。</p> <p>令和2年(2020)に、「柴五郎翁顕彰碑」が建てられた。また周辺地域を小公園に造成して、観光客の便宜をはかった。除幕式は令和3年6月27日(日)に行われた。</p>	<p>○落野沢での困窮生活は、柴五郎の講演「会津戦争後談(『続下北地域史話』所収)を参照。○石光真人編著『ある明治人の記録』は脚色部分が多い。○柴五郎の記念碑は会津若松市にない。</p>
<p>補 足 弘前藩から農機具の援助</p>	<p>明治4年(1871)3月21日に、斗南藩大参事の山川浩は、弘前藩を訪れた。農具寄贈の厚意に感謝し、青森大火被災民に下北のヒバ材1000石を贈った。</p>	
<p>補 足 廃藩置県と合県運動</p>	<p>明治4年7月14日の廃藩置県によって、弘前県・黒石県・八戸県・七戸県・斗南県・館県の六県が誕生した。斗南県の広沢安任は八戸県の太田広城と会議をし、経済的に豊かな弘前県と一緒にするのが得策であると考えた。斗南県の場合は、藩士の貧窮を救うには良案と考えた。先見性があった証拠である。</p> <p>明治4年に黒石県・八戸県・七戸県・斗南県・館県の五県は弘前県に併合した。同年に弘前県庁を青森に移し、青森県庁と改めた。</p>	

写真と地図



1. 斗南藩土上陸之地



2. 円通寺の招魂之碑



3. 徳玄寺



4. 斗南藩史跡地の土堀跡



5. 秩父宮両殿下御成記念碑



6. 斗南藩追悼之碑



7. 尻屋崎灯台



8. 感恩碑



9. 柴五郎一家居住跡の
柴五郎翁顕彰碑



斗南藩史跡地案内板より

歴史用語・地名・人名

斗南藩土上陸之地

外輪蒸気船(がいりんじょうきせん) 大平浦(おおだいらうら) 4艘の舳(よんそうのはしけ)
円通寺(えんつうじ) 常念寺(じょうねんじ) 徳玄寺(とくげんじ) 止宿(ししゆく)
揮毫者(きごうしゃ) 松平保定(まつだいらもりさだ) 背炙山(せあぶりやま)
凝灰岩(ぎょうかいがん) 慶山石(けいざんせき)

円通寺の「招魂之碑」

仮藩庁(かりはんちよう) 三十三回忌(さんじゅうさんかいき) 招魂之碑(しょうこんのひ)
松平容大(まつだいらかたはる) 碑陰記(ひいんき) 南摩綱紀(なんまつなのり)
掛幅(かけふく) 玩具(がんで) 布袋像(ぼていぞう)

徳玄寺

中啓(ちゅうけい) 橋爪陽(はしづめきよし)

斗南藩史跡地、秩父宮両殿下御成記念碑

土塀跡(どべいあと) 剥がされ(はがされ) 補修(ほしゅう) 令弟(れいてい)
雍仁親王(やすひとしんのう) 松平容保(まつだいらかたもり) 恆雄(つねお) 節子(せつこ)
勢津子(せつこ) 御成婚(ごせいこん) 松平保男(まつだいらもりお) 男爵(だんしゃく)
両殿下(りょうでんか) 斗南ヶ丘(となみがおか) 御成り(おなり)
秩父宮勢津子妃(ちちぶのみやせつこひ)

旧斗南藩墳墓の地

追悼碑(ついでうひ) 泰齋靈神(たいさいれいしん) 佐々木檉齋(ささきていさい)
手代木勝任(てしろぎかつとう) 佐々木只三郎((ささきたださぶろう)
京都見廻組(きょうとみまわりぐみ) 竹村俊秀祖母之墓(たけむらとしひでそぼのはか)
嘱望(しよくぼう) 織が合わず(おりがあわず) 企て(くわだて) 思案橋事件(しあんばしじけん)
助兵衛(すけべえ) 鬢翁(びんおう) 島影弥五七(しまかげやごしち)
斗南藩追悼之碑(となみはんついでうひ)

尻屋崎灯台と感恩碑

尻屋崎周辺(しりやざきしゅうへん) 暗礁(あんしょう) 竣工(しゅんこう)
感恩碑(かおんひ) 躑躅見ヶ丘(つつじみがおか) 台湾総督(たいわんそうとく)
枢密顧問官(すうみつこもんかん) 石塚英蔵(いしづかえいぞう) 介添役(かいぞえやく)

柴五郎一家住居跡と呑香稻荷神社

大平(おおだいら) 落野沢(おとしのさわ) 新田家(にったけ) 辛酸(しんさん) 間借り(まがり)
開墾(かいこん) 呑香稻荷神社(どんこいなりじんじゃ)

補足

大参事(だいさんじ) 山川浩(やまかわひろし) 弘前藩(ひろさきはん) 1000石(せんごく)
広沢安任(ひろさわやすとう) 太田広城(おおたひろき)

斗南藩士の軌跡 発信



斗南藩の歴史や柴五郎の人物像について語る三浦さん(11月16日、むつ市で)

記者ノート 2023

昨年9月に、むつ通信部(むつ市)に異動して1年余り。戊辰戦争に敗れた会津藩士らが、現在のむつ市などで再興した斗南藩にまつわる話題を取材することも多い。

記者は小学生の頃から歴史好き。高校では歴史文化研究部に所属して地元・名古屋の尾張藩の研究に没頭していた。

むつ市では、斗南藩士らが国の重要文化財である尻屋崎灯台(東通村)の建設に貢献した可能性があることなどを取材。好奇心をくすぐられ、喜びもひとしおだった。

一方、取材を通して痛感したのは、斗南藩の知名度の低さだ。11月、市内の下北文化

会館で、地域史研究家の三浦順一郎さん(74)が会津出身の軍人・柴五郎をテーマにした講座を開いた。柴は、後に中国の義和団事件などで活躍し陸軍大将にまで上り詰めた人物だが、子どもの頃に現在のむつ市で生活した。

三浦さんは、柴の義理堅い性格や斗南での厳しい暮らしを紹介。参加者からの評判は上々だったが、「(柴五郎や斗南藩について)あまり知らなかった」との声も聞かれた。

確かに斗南藩は、廃藩置県により2年足らずで幕を閉じた「短命藩」。市内にも史跡やゆかりの地が点在するだけで、城や資料館といった目立

った観光地があるわけではない。戊辰戦争に敗れ、失意の中にあっても新天地に希望をいだそうとした斗南藩士たちの生きた証しをどう広め、どう後世に残していくのか。

三浦さんは「だからこそ、絶えず発信していくことが大事」と強調する。今後自ら下北地域を歩いて探した史料を基に講座などで紹介する予定だ。藩士の子孫らでつくる「斗南会津会」(むつ市)も子孫同士の交流促進やSNSを通じて発信に力を入れるという。

2025年は斗南藩士がむつ市に移住してから150年という節目。来年には市内で柴五郎を主人公にした劇も予定されているという。記者も継承に取り組む人々の活動や思いを読者に伝えられるよう取材を続けたい。

(水野一希)



斗南藩追悼之碑